

略 歴

辻 幸 夫

学 歴

- 1975年 6月 米国イリノイ州 Stephen Decatur High School 卒業
- 1976年 3月 山梨県立甲府第一高等学校卒業
- 1976年 4月 慶應義塾大学文学部入学
- 1980年 3月 慶應義塾大学文学部卒業
- 1984年 4月 慶應義塾大学大学院文学研究科前期博士課程入学
- 1986年 3月 同課程修了
- 1986年 4月 慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程入学
- 1989年 3月 同課程修了

職 歴

- 1980年 3月 独立行政法人国際交流基金就職
- 1984年 5月 同基金、進学のため円満退職
- 1987年 4月 慶應義塾大学文学部非常勤講師
- 1988年 4月 慶應義塾大学法学部助手
- 1991年 4月 慶應義塾大学法学部専任講師
- 1993年 4月 日本女子大学非常勤講師（1993年9月まで）
- 1994年 3月 英国ロンドン大学客員研究員（1996年6月まで）
- 1994年 4月 慶應義塾大学法学部助教授
- 1994年 9月 英国オックスフォード大学客員研究員（1996年3月まで）
- 1997年 10月 慶應義塾大学国際センター（兼任）（1998年1月まで）

- 1998 年 10 月 同 国際センター（兼任）（1999 年 1 月）
1999 年 4 月 慶應義塾大学法学部教授
2002 年 10 月 慶應義塾大学教養研究センター
2002 年 4 月 慶應義塾大学文学部（出講）
2003 年 4 月 清泉女子大学大学院非常勤講師（2005 年 3 月まで）
2003 年 8 月 金沢大学大学院非常勤講師（2003 年 9 月まで）
2008 年 10 月 信州大学非常勤講師（2009 年 2 月まで）
2012 年 4 月 慶應義塾大学大学院文学研究科（出講）
2012 年 10 月 慶應義塾大学自然科学研究教育センター
2017 年 10 月 慶應義塾大学言語文化研究所運営委員

学会・社会活動

- 1989 年 4 月 公益財団法人 AFS 日本協会評議員（1993 年 3 月まで）
1999 年 4 月 全国高校生留学・交流団体連絡協議会評議員（2002 年 3 月まで）
1999 年 4 月 公益財団法人 AFS 日本協会理事（2007 年 3 月まで）
2000 年 9 月 日本認知言語学会事務局代表（2005 年 9 月まで）
2005 年 9 月 同学会理事（2009 年 9 月まで）
2004 年 5 月 習志野市教育委員会学校評議員
2005 年 10 月 慶應英文学会副会長
2006 年 12 月 独立行政法人大学入試センター企画委員（2011 年 3 月まで）
2009 年 9 月 日本認知言語学会副会長（2013 年 9 月まで）
2012 年 11 月 日本認知言語学会学会誌『認知言語学研究』編集委員
2013 年 9 月 日本認知言語学会会長・理事長（2019 年 12 月まで）
2019 年 12 月 日本認知言語学会名誉会長

その他、日本認知科学会、日本神経心理学会ほか正会員
公益財団法人日本英語検定協会英検 1 級面接委員などを歴任

主な業績

1. 編著・共著・分担執筆

- 『認知言語学大事典』（編集主幹）辻幸夫，（編集）楠見孝・菅井三実・野村益寛・堀江薫・吉村公宏，朝倉書店，2019年。
- 『新編 認知言語学百科』（編集）华东理工大学出版社，2019年。
- 『よくわかる言語発達 改訂新版』（分担執筆），（編集）岩立志津夫・小椋たみ子，ミネルヴァ書房，2017年。
- 『ことばのおもしろ事典』（共著），（第7章「意味の意味とは何か？」担当），（編集）中島平三，朝倉書店，2016年。
- 『日本語大事典』（分担執筆），（編集代表）佐藤武義・前田富祺，朝倉書店，2014年。
- 『新編 認知言語学キーワード事典』（編著），研究社，2013年。
- 『ヒトはいかにしてことばを獲得したか』（共著）正高信男・辻幸夫，大修館書店，2011年。
- 『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』（監修）辻幸夫，（編集）中本敬子・李在鎬，ひつじ書房，2011年。
- 『「学び」の認知科学事典』（分担執筆），（第IV部第4章「言語の習得」担当），（監修）佐伯胖・（編集）渡部信一，大修館書店，2010年。
- 『언어의인지과학사전』（編集），Pakijon Press，2008年。
- 『心とことばの脳科学』（共著）山鳥重・辻幸夫，大修館書店，2006年。
- 『新版 日本語教育事典』（分担執筆），（編集）日本語教育学会，大修館書店，2005年。
- 『인지언어학키워드사전』（編集），Hankook Publishing Company，2004年。
- 『認知言語学への招待』（編著）大修館書店，2003年。
- 『認知言語学キーワード事典』（編著）研究社，2002年。
- 『ことばの認知科学事典』（編著）大修館書店，2001年。

『英語学文献解題第2巻言語学Ⅱ』（分担執筆），（監修）寺澤芳雄，研究社，2000年。

『英語の意味』（共著），（第8章「意味の習得」担当），（編集）池上嘉彦，大修館書店，1996年。

2. 翻訳書

『言語は本能か—現代言語学の通説を検証する』（共訳）辻幸夫・黒滝真理子・菅井三実・村尾治彦・野村益寛・八木橋宏勇，開拓社，2021年。

『比喩と認知—心とことばの認知科学』（監訳）辻幸夫・井上逸兵，（翻訳）小野滋・八木健太郎・出原健一，研究社，2008年。

『ことばをつくる—言語習得の認知言語学的アプローチ』（共訳）辻幸夫・野村益寛・出原健一・菅井三実・鍋島弘治朗・森吉直子，慶應義塾大学出版会，2008年。

『認知言語学のための14章（第3版）』（共訳）辻幸夫・鍋島弘治朗・篠原俊吾・菅井三実，紀伊國屋書店，2008年。

『認知言語学のための14章』（翻訳）紀伊國屋書店，1996年。

『認知意味論—言語から見た人間の心』（共訳）池上嘉彦・河上誓作・辻幸夫・西村義樹・坪井栄治郎・梅原大輔・大森文子・岡田禎之，紀伊國屋書店，1993年。

3. その他著書

『しゃべる英会話電子ブックビジュアル版 起きてから寝るまで表現550』（共著・解説），Active English 編集部編，アルク，1992年。

『起きてから寝るまで表現550（海外旅行編）』（共著・解説），Active English 編集部編，アルク，1990年。

『コミックで覚える生きた英会話「感情・客観的な表現編」』（共著），Active English 編集部編，アルク，1989年。

『コミックで覚える生きた英会話「意志を伝える表現編」』（共著），Active English 編集部編，アルク，1989年。

『起きてから寝るまで表現 550』（共著・解説），Active English 編集部編，アルク，1989 年．

4. 主な論考

「漢字仮名交じり表記法の認知科学」『ことばと文字』14:102-113，2021 年．

「学際研究としての認知言語学を捉え直す」『日本認知言語学会論文集』15:577-587，2015 年．

「コミュニケーションと心・言語について考える：認知科学の立場から」『東京都立学校難聴・言語障害教育研究教育 50 周年記念紀要』（42）:13-41，2013 年．

「名詞句の飽和性と見立て—非飽和化の諸相」（共著，小屋逸樹，辻幸夫）『教養論叢』134:17-33，2013 年．

「無助詞文とは何か」（共著，小屋逸樹，辻幸夫）『慶應の教養学』297-312，2008 年．

「認知言語学の周辺—学際性と実証性」『英語青年』CLIV 3:16-19，2008 年．

「認知科学の展開と応用の可能性」『英語教育』35（9）:28-30，2006 年．

“Stance-indexicals and language behavior.” (with Ippei Inoue) *Language and Understanding and Action Control* (Annual Project Report: Grant-in Aid for Creative Basic Research), 21-30, 2006.

「戦略的比喩と言語行動：予備的考察」（共著，辻幸夫，菅井三実）『教養論叢』125:21-40，2006 年．

“Interjection as action indexical from a cognitive and sociolinguistic perspective.” (with Ippei Inoue) *Language Understanding and Action Control* (Annual Project Report: Grant-in Aid for Creative Basic Research), 19-28, 2005.

“Discourse markers: link words as action indexicals.” (with Ippei Inoue) *Language Understanding and Action Control* (Annual Project Report: Grant-in Aid for Creative Basic Research), 17-23, 2004.

「言語と思考と行動を結ぶ比喩：認知言語学的考察と今後の展望」『言語理解と行動制御』（学術創成研究年次報告），27-32，2003 年．

“Figuration: a cognitive integration of language, thought, and action.” *Language Understanding and Action Control* (Annual Project Report, Grant-in Aid for Creative Basic Research), 21-30, 2003 年 .

「認知的隠喩研究に向けて」『日本認知言語学会論文集』 2:272-275, 2002 年.

「高校生留学の意義と今後の課題」『留学交流』 11 (9):2-5, 1999 年.

「認知言語学の見取り図」『言語』 27 (11):46-53, 1998 年.

“Computer terminology in Japanese: the need for analogy, figuration and semantic transparency.” *Geibun-Kenkyu* (73):494-507, 1997 年 .

「認知科学から見た意味」『言語』 26 (9):60-68, 1997 年.

“A note on the cognitive theory of metaphor and emotive language.” *Poetica* 46: 15-39, 1996 年 .

「パソコン用語の認知意味論」『言語』 25 (9):50-57, 1996 年.

「感情の言語とメンタルモデルに関する一考察」『教養論叢』 95:67-97, 1994 年.

「認知言語学の考え方」(共著, 辻幸夫, 坪井栄治郎, 西村義樹)『言語』 22 (4):78-83, 1993 年.

「領域固有と領域中立的知識の再構築—モジュール性と理論的諸問題」『教養論叢』 94:31-47, 1993 年.

「カテゴリー化の能力と言語」『言語』 20 (10):46-53, 1991 年 10 月.

“Metaphorical mapping as a tool of verbalization and conceptualization.” *Kyogyo-Ronso* 83:77-93, 1990 年 .

“(Review article) *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: Univ. of Chicago Press, 1987.”『英文學研究』 65 (2):310-315, 1989 年.

「カテゴリー化とプロトタイプ効果の再考」『教養論叢』 94:31-47, 1989 年.

“Temporal expressions and spatial metaphor.” *Daito Review of Arts and Letters* 3: 67-76, 1987 年 .

“English verbs of quantitative change.” *Geibun-Kenkyu* 49:1-20, 1986 年 .

“A note on the lexical structure of the English verbs referring to the quantitative changes in

spatial dimensions. “*Daito Review of Arts and Letters* (2): 98-112, 1986 年.

5. 総説・解説・その他

「春のサイテン」『三色旗』840:1, 2022 年

「チョムスキーを超えて—普遍文法は存在しない」(監修)『日経サイエンス』5:52-58, 2017 年.

「意味の三角形—意味研究への誘い」『言語学出版社フォーラム, リレーエッセイ』, 2010 年.

「言語起源の研究動向」『言語』38 (10):60-61, 2009 年.

「これからの認知言語学」(山梨正明, 辻幸夫, 初山洋介)『言語』38 (10):8-17, 2009 年.

「社会の中の脳 [下]: 心のしくみを探る」(岩田誠, 山鳥重, 河村満, 辻幸夫)『言語』38 (3):10-17, 2009 年.

「色彩と白の認知科学」(共著, 辻幸夫, 鈴木恒雄)『國文學』54 (3):56-65, 2009 年.

「社会の中の脳 [中]: 心のしくみを探る」(岩田誠, 山鳥重, 河村満, 辻幸夫)『言語』38 (2):10-17, 2009 年.

「社会の中の脳 [上]: 心のしくみを探る」(岩田誠, 山鳥重, 河村満, 辻幸夫)『言語』38 (1):10-17, 2009 年.

「創造する脳, 伝える脳 [下] (認知科学のフロンティア探訪 15)」(岩田誠, 山鳥重, 辻幸夫)『言語』36 (3):8-15, 2007 年.

「創造する脳, 伝える脳 [中] (認知科学のフロンティア探訪 14)」(岩田誠, 山鳥重, 辻幸夫)『言語』36 (2):8-15, 2007 年.

「創造する脳, 伝える脳 [上] (認知科学のフロンティア探訪 13)」(岩田誠, 山鳥重, 辻幸夫)『言語』36 (1):8-15, 2007 年.

「ニューラルネットで脳科学に迫る [下] (認知科学のフロンティア探訪 12)」(浅川伸一, 辻幸夫)『言語』35 (12):10-17, 2006 年.

「ニューラルネットで脳科学に迫る [中] (認知科学のフロンティア探訪 11)」(浅川伸一, 辻幸夫)『言語』35 (11):10-17, 2006 年.

- 「ニューラルネットで脳科学に迫る [上] (認知科学のフロンティア探訪 10)」
(浅川伸一, 辻幸夫)『言語』35 (10):10-17, 2006 年.
- 「精神医学から心を探る [下] (認知科学のフロンティア探訪 9)」(大野裕, 辻幸夫)『言語』35 (9):10-17, 2006 年.
- 「精神医学から心を探る [中] (認知科学のフロンティア探訪 8)」(大野裕, 辻幸夫)『言語』35 (8):10-17, 2006 年.
- 「精神医学から心を探る [上] (認知科学のフロンティア探訪 7)」(大野裕, 辻幸夫)『言語』35 (7):10-17, 2006 年.
- 「[学び]の認知科学 [下] (認知科学のフロンティア探訪 6)」(渡部信一, 辻幸夫)『言語』35 (6):10-17, 2006 年.
- 「[学び]の認知科学 [中] (認知科学のフロンティア探訪 5)」(渡部信一, 辻幸夫)『言語』35 (5):10-17, 2006 年.
- 「[学び]の認知科学 [上] (認知科学のフロンティア探訪 4)」(渡部信一, 辻幸夫)『言語』35 (4):10-17, 2006 年.
- 「脳が操る知覚の変容 [下] (認知科学のフロンティア探訪 3)」(柏野牧夫, 辻幸夫)『言語』35 (3):10-17, 2006 年.
- 「脳が操る知覚の変容 [中] (認知科学のフロンティア探訪 2)」(柏野牧夫, 辻幸夫)『言語』35 (2):10-17, 2006 年.
- 「脳が操る知覚の変容 [上] (認知科学のフロンティア探訪 1)」(柏野牧夫, 辻幸夫)『言語』35 (1):10-17, 2006 年.
- 「高校生にとって留学とは何か」(辻幸夫・鳥飼玖美子・見世理恵)『英語教育』51 (12):38-43, 2003 年.
- 「言語能力の土台は何か (認知科学との対話 12)」(正高信男, 辻幸夫)『言語』31 (12):98-105, 2002 年.
- 「感動を科学する (認知科学との対話 11)」(徃住彰文, 辻幸夫)『言語』31 (11):82-89, 2002 年.
- 「言語障害からことばを捉える (認知科学との対話 10)」(山鳥重, 辻幸夫)『言語』31 (10):76-84, 2002 年.
- 「動物の心を探る (認知科学との対話 9)」(渡辺茂, 辻幸夫)『言語』31 (9):84-

91, 2002年.

「談話分析への招待（認知科学との対話8）」（伝康晴，辻幸夫）『言語』31
(8):86-92, 2002年.

「メタファーの基本用語」『言語』31 (8):24-25, 2002年.

「子どもの認知能力を探る（認知科学との対話7）」（内田伸子，辻幸夫）『言語』31 (7):88-94, 2002年.

「意味をどう捉えるか（認知科学との対話6）」（土屋俊，辻幸夫）『言語』31
(6):80-87, 2002年.

「認知言語学が目指すもの（認知科学との対話5）」（山梨正明，辻幸夫）『言語』31 (5):84-92, 2002年.

「計算言語学から探る人間の知（認知科学との対話4）」（辻井潤一，辻幸夫）
『言語』31 (4):82-89, 2002年.

「格と認識の基盤」『言語』31 (4):36-37, 2002年.

「複雑系言語学への招待（認知科学との対話3）」（池上高志，辻幸夫）『言語』
31 (3):94-101, 2002年.

「知識獲得のメカニズムを探る（認知科学との対話2）」（楠見孝，辻幸夫）『言語』31 (2):90-97, 2002年.

「認知言語学への招待（認知科学との対話1）」（安西祐一郎，辻幸夫）『言語』
31 (1):76-84, 2002年.

「日本認知言語学会設立記念大会」『英語青年』146 (9):39, 2000年.

「メタファとインタラクティブソフトウェア」『日本ソフトウェア科学会講習会
資料シリーズ (Japan Society for Software Science and Technology, Seminar
Series)』, 1999年.

「言語学のフロンティア」『言語』25 (8):120-125, 1996年.

「ことばとイメージ」『教養論叢』100:114-115, 1995年.

「生得論／構成論と領域固有／中立をめぐる」『英語青年』138 (11):575-
575, 1993年.

「日本の語用論研究に望む」井出祥子・辻幸夫・橋本良明『言語』22 (7):20-
41, 1993年.

- 「プロトタイプとカテゴリー論の動向」『英語青年』138 (8):416-416, 1992 年.
- 「認知と比喩研究について」『英語青年』138 (5):243-243, 1992 年.
- 「認知言語学の動向」『英語青年』138 (2):82-82, 1992 年.
- 「周辺への期待」『三色旗』522, 1991 年.
- 「ことばの痛み」『教養論叢』82:42-43, 1989 年.
- 「外国語と私」『三色旗』486:18-21, 1988 年.

6. 書評・文献紹介

- [書評]「ことばと文化を考える」(文献紹介)『英語教育』66 (7):91, 2017 年.
- [書評]『解いて学ぶ認知言語学の基礎』(瀬戸賢一, 山添秀剛, 小田希望著, 大修館書店)『英語教育』65 (13):90, 2017 年.
- [書評]『言語と身体性』(講座コミュニケーションの認知科学第 1 巻, 岩波書店)『英語教育』64 (1):90-91, 2015 年.
- [書評]『認知意味論研究』(山梨正明, 研究社)『英語教育』62 (5):95-96, 2013 年.
- [書評]『ことばの裏に隠れているもの—子どもがメタファー・アイロニーに目覚めるとき』(津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ訳, ひつじ書房)『英語教育』60 (7):92-93, 2011 年.
- [書評]『こころと言葉—進化と認知科学のアプローチ』(長谷川寿一, C. ラマー, 伊藤たかね編集, 東京大学出版会)『言語』38 (3):110, 2009 年.
- [書評]『メタファー研究の最前線』(楠見孝編集, ひつじ書房)『言語』37 (2):118, 2008 年.
- [書評]『言語科学の百科事典』(鈴木良次編集, 丸善)『言語』36 (4):119, 2007 年.
- [書評]『言語科学の百科事典』(鈴木良次編集, 丸善)『學燈』103 (4):53, 2006 年.
- [書評]『コミュニケーション障害入門』(太田富雄, 岩田吉生, 石坂郁代訳, 大修館書店)『英語教育』54 (9):95, 2005 年.
- [書評]『《物》と《場所》の意味論』(久島茂, くろしお出版)『言語』31

(10):118-119, 2002年.

[書評] 「認知科学」(文献紹介)『言語』31(5):40-43, 2002年.

[書評] 『ことばの認知科学事典』(辻幸夫編, 大修館書店)(新著紹介)『三色旗』648:34 2002年.

[書評] 『認知言語論』(定延利之著, 大修館書店)『言語』29(5):136, 辻幸夫, 2000年.

[書評] 『ことばの世界』(藤田実, 平田達治編集, 大修館書店)『ΠΑΠΥΡΟΣ』22:16-17, 1985年.

[書評] 『言語のルーツ』(デレック・ビッカートン著, 笈寿雄訳, 大修館書店)『ΠΑΠΥΡΟΣ』21:24, 1985年.